

チャシバスケの陰に消えたエゾシバスケ

福岡市 佐藤 広行¹

札幌市 吉中 弘介

はじめに

北海道大学総合博物館の耐震改修に伴い、標本庫の移動と APG 体系への配列の変更を行うため、所蔵標本のリスト化等を行った(吉中・佐藤 2018)。その際に、カヤツリグサ科のチャシバスケ(図1)のジーナスカバーを見つけれないが、同じような学名のエゾシバスケならあるという状況に遭遇した(ジーナスカバー: 標本棚に収蔵する際に属や種ごとにまとめて束ねる厚手の紙のこと)。チャシバスケはシバスケに似るが、穂が褐色になることに因んで和名がつけられ、主に北海道・東北地域の海浜草地に分布していることが知られている(牧野 1956, すげの会 2018)。近年用いられる図鑑類にはエ

ゾシバスケの記述はなく、過去に用いられたと考えられる標本庫に眠っていたエゾシバスケの由来を調べた。

エゾシバスケの命名者は誰か

エゾシバスケのジーナスカバーには *Carex microtricha* Franch. と書かれており、Franchet により記載されたものであることが分かるが、Franchet がエゾシバスケと和名をつけることは考えられないので、いつ誰がエゾシバスケの和名を付けて呼んだのかが問題となる。そこで、時代的に北海道大学の植物標本を管理していた宮部金吾を辿って文献を調べると、宮部金吾・工藤祐舜著の *Flora of Hokkaido and Saghalien* には *C. microtricha* Franch. の学名を伴いエゾシバスケが記録されていた(Miyabe and Kudo 1931)。さらにこの文献では Franchet の記載論文の他に、松村任三と中井猛之進の2件の先行研究を引用していた。松村の植物名鑑(Matsumura 1905)には *C. microtricha* Franch. の学名の記述を見たが、和名はあてられていなかった。次に中井猛之進が著した北海道石狩國大雪山植物調査報告書(中井 1930)、少し難儀な文献で、別の文献名「天然紀念物調査報告 植物之部 第12輯」を持ち、英名では「Veg. Daisetsusan」とも略記される文献であるが、中井のこの文献には *C. microtricha* Franch. の学名を伴い、かつエゾシバスケ(新称)と記述されており、エゾシバスケの和名を与えたのは中井猛之進であ



図1 花期のチャシバスケ 加藤ゆき恵氏提供
2007年5月6日撮影